１年　国語科学習指導案

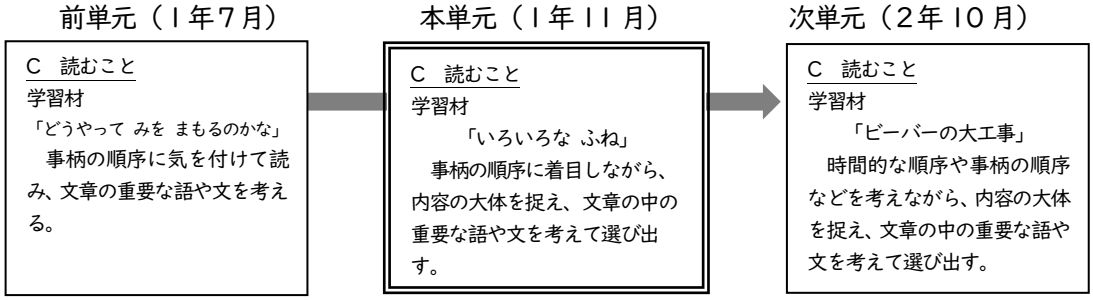
授業者　大阪市立海老江西小学校　川上　亮
大阪市立南住吉小学校　　鈴木　美香

１　日　　時　　令和８年１１月１０日（火）第５校時（14：00～14：45）
２　学年・組　　第１学年い組（海老江西）（在籍３３名）、第１学年４組（南住吉）（在籍２８名）
３　単 元 名　　いちおしの ふねを しょうかいしよう
（「いろいろな ふね」東京書籍１年下）

４　単元目標

(1)　共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕(2)ア
(2)　事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア
(3)　船の「やく目」や「つくり」を表す語や文を見付けることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ
(4)　言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

５　単元間の関連と系統



６　単元で取り上げる言語活動

「いろいろな ふね」を読んで、「やく目」や「つくり」など学習したことをもとに、自分のいちおしの船を一つ選んで理由付けて紹介するという言語活動を設定する。この言語活動を行うためには、文章から「やく目」や「つくり」を選び出す力が必要となる。さらに、「やく目」に関連した「つくり」を見つけるために図鑑を読む。したがって、目的をもって文章の中の重要な語や文を選び出し、自分の表現に生かしていくという本単元の目標にふさわしい言語活動であると考えた。

（関連：〔思考力・判断力・表現力等〕C(２)ア）

７　評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。　((2)ア)	①「読むこと」において、事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。（C(1)ア） ②「読むこと」において、船の「やく目」や「つくり」を表す語や文を見付けている。（C(1)ウ）	①進んで、船の「やく目」や「つくり」を表す語や文を見付け、今までの学習を生かして、乗ってみたい船とその理由を伝えようとしている。

８　指導にあたって

【児童観】

本単元における付けたい力を育むために、学習者は次のような学習を積み重ねてきている。

本学級の児童は、平仮名を用いて自分の思いや考えを書いたり、簡単な文を読んだりすることに慣れてきている。音読を通して内容を確かめようとする姿が見られる一方で、大事な言葉に着目したり、事柄を比べながら読んだりすることには個人差がある。

これまでの説明文的な文章の学習では、写真や挿絵と本文とを結び付けながら、書かれていることを確かめて読んできた。また、繰り返しの表現や事柄の順序に着目して、内容の大体を捉える学習もしてきた。

本単元では、これまでの学習経験を生かし、写真と本文を結び付けながら、事柄の順序や船の役目に着目して内容の大体を捉えられるようになる必要がある。

【単元観】

本単元は、「やく目」と「つくり」の２観点（今回の教科書改訂で手引きから「できること」という言葉は省かれており、２観点になっている）を使って、「いちおしのふね」（乗ってみたい船）を理由付けながら伝えることができるようになることをねらいとしている。

本学習材「いろいろな ふね」は、船にはいろいろな種類があり、それらはそれぞれ役目に合うように作られていることを説明した文章である。この文章は、「はじめ（話題提示）」「中（船の紹介）」「おわり（まとめ）」の基本的な説明文の文章構成になっている。四つの船（客船、フェリーボート、漁船、消防艇）を説明する書き手の発想・着眼点は、船の「やく目」と「つくり」、そして、つくりによるできることである。それらは全て一文ずつで説明されている。そのため、事例が変わっても同じ着眼点に即して読むことができる。しかし、これまで学習してきた「さとうと しお」や「どうやって みを まもるのかな」とは異なり、問いは書かれていない。そのため、学習者はどのような観点で読んでいけばよいのかはわからない。しかし、「おわり」の「いろいろな ふねが それぞれの やく目に あうように つくられて います。」から、それぞれの船の役目とその役目に合ったつくりについて書かれた文章であるということに気付くことができる。このように、「おわり」と結び付けて「中」を読むことで、「おわり」がまとめの役割をしていることも捉えることができる。また、客船の説明を基本的な文型として押さえることで、その他の３つの船が「やく目」と「つくり」、つくりによるできることの順で繰り返し説明されていることに気付くことができる。しかし、まったく同じ文型で反復されているわけではない。「やく目」を示す「〇〇は、～ためのふねです。」、「つくり」を示す「このふねの中には、△△や□□があります。」、つくりによるできることを示す「人は、△△で～（し）ます。」の基本的な文型が客船とフェリーボートで二回繰り返され、その後「つくり」とつくりによるできることは、少しずつ変化を伴って反復されている。これは、学習者にとって、同じ観点を説明する言葉が複数あることを知ることで、図鑑などから必要語句を探す際の一助となる。また、「つくり」は、その船の特徴となるものが二つずつ記載されており、「つくり」と対応するように、できることが説明されている。先述した通り、今年度の教科書の手引きには、「できること」という観点は省かれているが、次単元の「『のりものカード』を つくろう」では、「のりものカード」に書く内容として、つくりによるできることが記されている。そのことから、本単元では、観点として示すことはしないが、本単元においても、船を紹介する三文目をつくりによるできることとして指導しておく。

多くの学習者は、これまでの生活経験から人を乗せる船や魚を獲るための船があることは知っているであろう。しかし、客船とフェリーボートの違いや、消防艇については知らない学習者が多くいるであろう。実際に船に乗ったことがある学習者も少ないと考えられる。そのため、「つくり」やつくりによるできることで示されている内容を文章や写真を手がかりにしながら想像したり、「やく目」と「つくり」、つくりによるできることの関連を推測したりしながら、具体的に船の特徴を捉える必要がある。そこで、一年生の学習者が乗ってみたいなと思う船とその理由を「やく目」「つくり」、つくりによってできることを理由として見つけるようにする。

このように、船の事例を読み取る学習をした後に、どの船に乗ってみたいと思うか、「やく目」「つくり」の二観点をふまえて、お気に入りの事柄を選んで伝え合う学習を行うようにする。そうすることで、次の書く単元の「はたらく のりもの ずかん」（教科書では「のりものカード」）作りにつなげることができる。働く乗り

物についても同じ観点で調べることで、乗り物の特徴や共通点を捉えることができ、乗り物に対する認識に広がりや深まりが出ると考えられる。

【指導観】

第一次では、教科書の扉に載っている船の写真を拡大したものを黒板に掲示し、知っていることや写真を見て気付いたことを交流し、船に関する情報を共有できるようにする。その後、授業者が本文を範読し、内容の大体と大まかな構成を捉える。最後に、乗ってみたい船について尋ねる。そして、「いろいろなふね」を学んだ後に、再度「いちおしのふね」を選んだ理由を交流することを伝え、本単元の学習の見通しをもつことができるようにする。

また、乗り物には他にどのようなものがあるのかを尋ね、船は乗り物の一つの種類であることを押さえ、他の乗り物についても興味・関心をもてるようにする。さらに、次単元「『のりものカード』をつくろう」に向けて調べてみたいという意欲が高まるように、教室には乗り物についての関連図書を用意する。

そして、「いろいろなふね」を読み、それぞれの船の特徴について捉えられるようにする。大きな構成をつかむようにする。

第二次では、４つの船の読み取りを行う。文章や写真を対応させて読むことで、いくつの事例が挙げられているか、船の説明の部分がどこにあるかを確かめ、はじめ、中、おわりの大まかなまとまりを捉えられるようにする。「やく目」と「つくり」の関係性などについて考えたりすることを通して、各船の特徴について読み取っていく。その際、言葉のつながりに着目しながら本文を読むようにしたり、書かれていることから推測できるようにしたりし、生活とのつながりなども考えた読みをしたりしながら、船の特徴について具体的に捉えられるようにする。また、「やく目」と「つくり」を表す語や文に着目させ、教科書の写真や、図鑑などの補助資料（「博士ブック」）と結び付けながら読むことで、情報と情報の関係を理解できるようにする。本時では、消防艇の「やく目」と「つくり」を本文に書かれた内容を補いながら読むことで、「ポンプ」と「ホース」が消防艇にとって重要なつくりであることを具体的に捉えることができるようにする。

第三次では、四つの船の中から自分の「いちおしのふね」を一つ選び、「やく目」や「つくり」、他の船との違いを根拠にして理由付けながら伝え合う活動を設定する。この活動は、次単元の「『のりものカード』をつくろう」の学習時に、乗り物を選び、図鑑などの資料から「やく目」と「つくり」を抜き出し、まとめる学習に生かすことができる。

単元の振り返りでは、本単元を通して、学んだことやできるようになったことを中心に振り返りを書くようにする。その際、事柄の順序に沿って読んだことや、「やく目」と「つくり」を比べて読んだことが、自分の考えをもつことにつながったと実感できるようにする。 その際、授業者が見取った学習者の変容やがんばりを伝えることで、学んだ自分がより価値づくようにする。

９　指導と評価の計画（全７時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1	○船に関する既有知識を交流し、教科書の扉の写真からわかることや気付いたことを伝え合う。 ○学習材を読み、内容の大体と大まかな構成をつかむ。 ○書いてある事柄の順序を確	・船に関する情報を共有したり知りたいことを出し合ったりすることで興味・関心を高めるようにする。 ・四つの船の説明が書かれているところを見付けることで、文章全体が「はじめ（話題提示）」「中（船の説明）」「おわり（まとめ）」の３つに分かれていることに気付くようにする。 ・四つの船の写真を黒板に掲示し、並	［思考・判断・表現①］ 教科書 ・内容の大体を捉えているかの確認をする。 ［知識・技能①］ ノート・観察 ・四つの船の順序について、共通点や相違点などから関係性について理解しているかの確認をする。

		認する。	び替えをする。 ・「ふりかえり」で「いちおしのふね」を一つ選ぶようにする。 ・三次では、学習したことをもとに「いちおしのふね」を選んだ理由を説明することを伝える。	
二	2 3	○客船の文章を読み、２観点で客船の特徴が説明されていることを読み取る。 ○文章と写真をつなげて読むことで、客船の特徴を捉える。 ○「ひみつしょうかい文」を書く。	・「～のためのふねです。」「この船の中には、～があります。」などの基本的な文型を確認し、「やく目」とできることを含む「つくり」の２観点で船が説明されていることを捉えられるようにする。 ・船の役目に関連したつくりを見つけるために資料を読むように促す。 ・船の資料を読むことで、それぞれのふねの役目をより具体的に捉えられるようにする。 ・前時で学習した船の特徴を振り返りながら、学習のめあてを確認する。	［思考・判断・表現②］ ノート・観察 ・それぞれの船の「やく目」や「つくり」を表す語や文を見付けているかの確認をする。 ［知識・技能①］ ノート・観察 ・教科書に書かれている内容をもとに、調べたことをつけ加えて学習したことを自分の言葉で書くことができる。
	4	○フェリーボートの文章と写真をつなげて読むことで、フェリーボートの特徴を捉える。 ○「ひみつしょうかい文」を書く。		
	5	○漁船の文章と写真をつなげて読むことで、漁船の特徴を捉える。 ○「ひみつしょうかい文」を書く。		
	6 本 時	○消防艇の文章と写真をつなげて読むことで、消防艇の特徴を捉える。 ○「ひみつしょうかい文」を書く。		
三	7	○「じぶんのいちおしの船」を紹介しよう。 ○四つの船の中から、いちおしの船を一つ選び、学習したことを基に理由付けて伝えるとともに、単元を振り	・学習した船が出てきた順序や船の特徴を想起できるようにする。 ・他の船と比べることで、いちおしの船を理由付けて選べるようにする。 ・書いた文章をもとに、交流できるようにする。	［主体的に学習に取り組む態度①］ ノート・観察 ・今までの学習を生かして、いちおしの船とその理由を船の「やく目」と

		返る。	・単元を振り返り、学びや気付きなどを書くようにする。	「つくり」を基に伝えようとしているかの確認をする。

［知識・技能①］ノート・観察

「おおむね満足できる」状況（B）評価

・事例と事例の「やく目」や「つくり」の共通点や相違点を見付けてつながりを考えたり、既有知識や生活経験などと関連させたりしながら、事例の順序について自分の考えを述べている。

「努力を要する」状況（C）への手立て

・「やく目」と「つくり」が書かれている言葉や文章を一緒に確認した後、四つの船と同じところやちがうところはどこかを考えられるようにする。さらに生活経験と結び付けて考えられるように事例の順序について理由を添えて話せるように支援する。

［思考・判断・表現①］教科書

「おおむね満足できる」状況（B）評価

・いくつの事例を挙げて説明をしているのか捉えたり、船の説明の部分を見付け、「はじめ（話題提示）」「中（船の説明）」「おわり（まとめ）」の大まかなまとまりを捉えたりしている。

「努力を要する」状況（C）への手立て

・四つの船の説明がそれぞれどこに書かれているかを一緒に探し、そのどれにも当てはまらないところを見付けさせるようにする。

［思考・判断・表現②］ノート・観察

「おおむね満足できる」状況（B）評価

・船の「やく目」と「つくり」を表す語や文を見付け、乗り物の特徴を捉えている。

「努力を要する」状況（C）への手立て

・基本的な文型を確認しながら、一文ずつ何について書かれた文なのかを確認できるようにする。

・「やく目」、「つくり」、つくりによるできることを色分けするように促すことで、視覚的に捉えやすくする。

［主体的に学習に取り組む態度①］ノート・観察

「おおむね満足できる」状況（B）評価

・進んで、船の「やく目」と「つくり」を表す語や文を見付け、今までの学習を生かして、乗ってみたい船とその理由を伝えようとしている。

「努力を要する」状況（C）への手立て

・学習した文型を掲示することで、いつでも「やく目」と「つくり」が確認できるようにする。

・「つくり」と見てみたい理由のつながりが間違っているものを提示することで、「つくり」と乗ってみたい理由のつながりを捉えられるようにする。

10　本時の学習

（1）本時の目標（6／7）

消防艇について書かれた文章と写真をつなげて読んだり、他の資料を読んだりすることで、「ホース」や「ポンプ」などの消防艇の特徴を具体的に捉えることができる。

（2）本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1　前時までの学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。	・本時の課題につながるようにノートを見返すように促したり、前時の学習者の振り返りを紹介したりする。	
「しょうぼうてい」のひみつしょうかい文をかこう。		
2　消防艇の内容を音読する。	・「やく目」と「つくり」、つくりによってできることは、それぞれどこに書かれているかを考えながら音読するように声をかける。	［思考・判断・表現②］ ノート・観察 ・消防艇の「やく目」と「つくり」を表す語や文を見付け、消防艇の特徴を捉えている。
3　消防艇の「やく目」と「つくり」、つくりによってできることを写真と対応させて読み取る。	・教科書に「やく目」と「つくり」、つくりによってできることを色分けしながら線を引いた後、デジタル教科書で確認する。 ・消防艇の「やく目」「つくり」を確認した後、ホースやポンプはどれか、写真と対応させて確認する。 ・具体的にイメージができていない箇所を共有し、どうすれば知ることができそうか、投げかけることで、他の資料も調べてみることの必要性を感じられるようにする。	
4　他の資料と読むことで、消防艇の特徴を捉える。	・内部構造がわかる資料や消防艇の説明が記載されている資料（「博士ブック」）を提示し、教科書に書かれた内容を具体的に捉えられるようにする。 ・「つくり」「やく目」を確認し、船で火を消す消防艇の動画を見て役割を捉えるようにする。	
5　消防艇の特徴を自分でまとめる。	・本時の学習のまとめとして、「ひみつしょうかい文」を書く。	
6　本時の学習を振り返る。	・消防艇について「わかったこと」、「気づいたこと」、「もっと知りたいこと」を書くようにすることで、消防艇の特徴を発表する。	

11　板書計画

